

1 クロチヨウガイの種苗生産に関する研究

嘉 数 清

目 的

培養期間が5日以内の“新鮮な” *Monochrysis lutheri* を餌として幼生を飼育する。

経過と結果

昭和48年5月21日及び5月30日にいずれも池の中で自然に放卵されたいわば“良質卵”を用いて、幼生の飼育を試みた。飼育容器に500ℓパンライト水槽を使用し、原則として毎日 $\frac{1}{3}$ ～ $\frac{1}{4}$ ずつ換水した。飼育中の水温は27.0～24.2℃、平均25.3℃であったが、幼生はいずれも受精後15～20日、殻長160～200 μ で死滅した。

今年度の幼生飼育は、使用した *M. lutheri* の卵質及び飼育水温がほぼ理想的だと思われたにもかかわらず、途中で死滅し、昭和46年当時の飼育法ではもはや採苗できないことが明らかとなった。その原因は不明であるが、環境変化による飼育水質の悪化が重大な原因ではないかと推測される。

今後の問題点

- (1) 昭和46年当時の幼生飼育法が適応できなくなった原因は何か。その究明と新しい飼育法の検討。
- (2) 飼育水中で爆発的に増殖してくる鞭毛虫の幼生に対する影響の解明とその対策。
- (3) 適性餌料の探索。